授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また、薄茶点前（後半）の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。さらに、フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考える力を培うとともに、伝統文化である茶道を通じた地域振興に興味関心を持つことができる。</p>							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶の歴史と鎮信流について説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考えることができる。				茶会参加レポート	10%	
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（後半）」を理解することができる。				点前確認	45%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績を45%とし、礼法や客作法、薄茶点前（後半）についてどこまで理解しているかなどから評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については30%とし、薄茶点前（後半）の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ（manaba）を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、13回目にポートフォリオを用いて行う。茶会参加のレポートについては10%とし、レポート様式に別途ルーブリックを記載する。</p>							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前（後半）を学ぶ。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。フィールドワークとしては、地域（長崎市や佐世保市、平戸市など）で開催される茶会に参加し、レポートを提出する。なお、茶会の参加費については別途案内する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：鳴内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 76～80頁 参考書：鳴内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 GP 関連事業(2007年) 指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

月2クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・フィールドワークとして、地域で開催される茶会に参加	茶会に参加し、伝統文化である茶道を通じた地域振興への取り組みからもてなしについて考える。 (安部・柳井)	茶会に必要な作法を確認する。
4	・薄茶点前（後半） (茶筌を洗うまで)	茶碗を洗い、茶筌を洗うところまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に返すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半）稽古①	薄茶点前（後半）の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半）稽古②	薄茶点前（後半）の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
9	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。 (安部・柳井)	薄茶点前（後半）の完成を目指す。
10	・点前確認振り返り	点前確認の振り返り、記録カードを作成する。 (安部・柳井)	点前確認を振り返り、自己評価する。
11	・お運び、客作法	お菓子やお茶の出し方、お菓子の取り方、お茶の飲み方について学ぶ。 (柳井)	お運びの仕方、客作法（菓子の頂き方、茶の飲み方）を予習・復習する。
12	・薄茶点前総復習	薄茶点前の総復習を行う。 (柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。 (安部・柳井)	祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	嶋内麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また、薄茶点前（後半）の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。さらに、フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考える力を培うとともに、伝統文化である茶道を通じた地域振興に興味関心を持つことができる。</p>							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶の歴史と鎮信流について説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考えることができる。				茶会参加レポート	10%	
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（後半）」を理解することができる。				点前確認	45%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績を45%とし、礼法や客作法、薄茶点前（後半）についてどこまで理解しているかなどから評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については30%とし、薄茶点前（後半）の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ（manaba）を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、13回目にポートフォリオを用いて行う。茶会参加のレポートについては10%とし、レポート様式に別途ルーブリックを記載する。</p>							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前（後半）を学ぶ。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。フィールドワークとしては、地域（長崎市や佐世保市、平戸市など）で開催される茶会に参加し、レポートを提出する。なお、茶会の参加費については別途案内する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 76～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 GP 関連事業(2007年) 指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱い自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (嶋内・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・フィールドワークとして、地域で開催される茶会に参加	茶会に参加し、伝統文化である茶道を通じた地域振興への取り組みからもてなしについて考える。 (嶋内・柳井)	茶会に必要な作法を確認する。
4	・薄茶点前（後半） (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を洗うところまでの流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） (茶碗を元の場所に返すまで)	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） (水指を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半）稽古①	薄茶点前（後半）の流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半）稽古②	薄茶点前（後半）の流れを確認する。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
9	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。 (嶋内・柳井)	薄茶点前（後半）の完成を目指す。
10	・点前確認振り返り	点前確認の振り返り、記録カードを作成する。 (嶋内・柳井)	点前確認を振り返り、自己評価する。
11	・お運び、客作法	お菓子やお茶の出し方、お菓子の取り方、お茶の飲み方について学ぶ。 (嶋内・柳井)	お運びの仕方、客作法（菓子の頂き方、茶の飲み方）を予習・復習する。
12	・薄茶点前総復習	薄茶点前の総復習を行う。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。 (嶋内・柳井)	祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 (嶋内・柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また、薄茶点前（後半）の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。さらに、フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考える力を培うとともに、伝統文化である茶道を通じた地域振興に興味関心を持つことができる。</p>							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶の歴史と鎮信流について説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	フィールドワーク（茶会参加）を通して、もてなしについて考えることができる。				茶会参加レポート	10%	
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（後半）」を理解することができる。				点前確認	45%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績を45%とし、礼法や客作法、薄茶点前（後半）についてどこまで理解しているかなどから評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については30%とし、薄茶点前（後半）の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ（manaba）を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、13回目にポートフォリオを用いて行う。茶会参加のレポートについては10%とし、レポート様式に別途ループリックを記載する。</p>							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前（後半）を学ぶ。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。フィールドワークとしては、地域（長崎市や佐世保市、平戸市など）で開催される茶会に参加し、レポートを提出する。なお、茶会の参加費については別途案内する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：鳴内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 76～80頁 参考書：鳴内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 GP 関連事業(2007年) 指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

木2クラス、木3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。	講義概要（シラバス）を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前（前半）復習 ・客作法復習	茶道文化 I A で学んだ薄茶点前（前半）と客作法を復習する。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・フィールドワークとして、地域で開催される茶会に参加	茶会に参加し、伝統文化である茶道を通じた地域振興への取り組みからもてなしについて考える。	茶会に必要な作法を確認する。
4	・薄茶点前（後半） （茶筌を洗うまで）	茶碗を洗い、茶筌を洗うところまでの流れを確認する。	教科書 pp. 76～77 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前（後半） （茶碗を元の場所に返すまで）	道具を清め、茶碗を元の場所に戻すまでの流れを理解する。	教科書 pp. 77～78 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前（後半） （水指を持ち帰るまで）	道具の持ち帰り方を理解する。	教科書 pp. 78～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前（後半）稽古①	薄茶点前（後半）の流れを確認する。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前（後半）稽古②	薄茶点前（後半）の流れを確認する。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
9	・点前確認	薄茶点前（後半）がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前（後半）の完成を目指す。
10	・点前確認振り返り	点前確認の振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
11	・お運び、客作法	お菓子やお茶の出し方、お菓子の取り方、お茶の飲み方について学ぶ。	お運びの仕方、客作法（菓子の頂き方、茶の飲み方）を予習・復習する。
12	・薄茶点前総復習	薄茶点前の総復習を行う。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・茶の歴史と鎮信流について ・小テスト	茶の歴史と鎮信流の特徴などについて学ぶ。	教科書 pp. 15～33 を読み、予習・復習をする。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。	祝儀袋のマナーを調べておく。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べておく。

木1クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (2022年度秋季入学生) (AB102)			担当教員	※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・後(春)期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、日本の文化を理解する力を養う。また薄茶点前(後半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。							⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協働できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前(後半)」を理解することができる。				点前確認	60%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を60%とし、礼法や客作法、薄茶点前(後半)についてどこまで理解しているかなどから評価する。点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については30%とし、薄茶点前(後半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。							
授業の概要							
点前については、薄茶点前(後半)を学び、道具を洗い、運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I Bを履修するためには、茶道文化 I Aの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P関連事業(2014年) 指定図書：筒井 紘一著『知って得する茶道のいろは』淡交社(2014年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶に関する内容(道具・菓子)などに関心を持つこと。 ・1人で点前の稽古が出来るよう、事前・事後の学習を行うこと。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

木1クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・割り稽古復習	割り稽古の復習。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 53～62 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習①	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前(前半)復習②	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前(前半)復習③	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前(後半)見本	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前(後半)稽古③	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
9	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
10	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
11	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(後半)の完成を目指し、自主的な稽古をする。
12	・点前確認振り返り	点前確認の振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
13	・薄茶点前復習①	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
14	・薄茶点前復習②	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
15	・薄茶点前復習③	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。